

河村哲二先生の定年退職をお祝いして

経済学部長 廣 川 みどり

河村哲二先生，定年退職おめでとうございます。

河村先生は，東京大学経済学研究科博士課程を1980年単位取得満期退学され，その後，帝京大学経済学部で専任講師・助教授・教授，武蔵大学経済学部で教授を務められました。1994年には東京大学より経済学博士号を取得され，2005年に法政大学経済学部に教授として赴任されました。それから，17年間，法政大学にいらっされてからは，ご研究・ご教育に加え，法政大学大学院経済学研究科長，法政大学サステナビリティ教育研究機構研究企画運営委員長，法政大学特定課題研究所グローバル・サステナビリティ研究所所長としてご活躍いただきました。

また法政大学内に留まらず，マサチューセッツ大学での二度の長期在外研究（うち1回は日米教育委員会フルブライトプログラムF.D.F.グラントを取得されてのご研究）や，さまざまな国（40数カ国）での現地調査（国内外で400件ほどの工場・企業等の実態調査），国内外での学会発表，他大学での非常勤講師の活動を行われ，経済理論学会の代表幹事（学会長，2016年4月～2022年3月の二期間）をはじめ，さまざまな学会の幹事や評議員・委員長，また，政府の業務なども歴任されました。河村哲二先生はいったい何人いらっしやるのかと思うほどです。

多くのご研究をなされており，しかも門外漢のわたしが先生の専門研究について述べることは無謀な試みと思われれます。しかし，せっかく多様な

専門の研究者の集合体である本学経済学部出身者としては、専門外のことを知るよい機会と思い、少しだけ、先生のご業績に触れさせていただくということにさせていただきます。

先生のご専攻は「アメリカ経済論」「グローバル経済論」「理論経済学」で研究テーマは「現代アメリカ経済とそのグローバル・インパクト・パックス・アメリカナの再編と転換」ということで、先生に直接ご連絡させていただき、膨大なご研究のなかから、代表的なご著書の紹介をいただきました。

- (1) 河村哲二著『現代アメリカ経済』有斐閣, 2003年3月(総頁数384頁+)。
- (2) 河村哲二著『パックス・アメリカナの形成—アメリカ「戦時経済システム」の分析』東洋経済新報社, 1995年4月(総頁数339頁+)。
- (3) 河村哲二著『第二次大戦期アメリカ戦時経済の研究—「戦時経済システム」の形成と「大不況」からの脱却過程』御茶の水書房, 1998年12月(総頁数342頁+)。
- (4) Kawamura, Tetsuji, ed., *Hybrid Factories in the United States under the Global Economy*, Oxford University Press, July 2011(320 pages) .
- (5) 河村哲二編著『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌: 中国, インド, ブラジル, メキシコ, 東南アジア』ナカニシヤ出版, 2018年8月31日(総頁数352頁+)。

また、初心者にも親しみやすい本としては、以下の紹介をいただきました。

- (6) 河村哲二・弘兼憲史著『知識ゼロからのアメリカ経済入門』幻冬舎, 2009年8月(総頁数170頁)。

このうち、(1), (2), (6) を手に取らせていただきました。おそらく代表的なご著作は、先生の博士論文をもとに執筆された(2) および(3)で

あるかと存じます。

(2), (3) は, 第二次世界大戦期のアメリカ戦時経済論を論じ, パックス・アメリカーナの確立について新たな視座を与えたものです。このご研究は, 河村先生によれば, 第二次大戦のインパクトを重視して, 戦後の世界経済の繁栄をもたらした「パックス・アメリカーナ」の経済体制の形成が, 何よりも第二次大戦による経済の制度的・構造的変化によって生じた点を解明しており, 混合経済体制論や国家独占資本主義論にしばしば見られるニューディール転換説に対する批判の書ともなっています。

こうしたパックス・アメリカーナの体制は1970年代半ばまでにいったん衰退し, 変質しながら, 世紀を超えて, 9.11も乗り越え, アメリカは依然として世界で大きな存在感を示しています。とはいえ, サブプライム問題に端を発するグローバル金融危機, トランプ大統領の出現, 米中の対立, コロナウイルスの猛威など, 世界史的な事件が, 20世紀の終焉とともに次々に起こり, 世界はこれからどのように向かうのか, 誰もなかなか見通せない状態でしょう。こうした状況では, 歴史の理論的な解明が大きな意味を持つものと思います。実際にも経済理論の面では, 先生は, これまでの資本主義の発展段階論を組み替えて, パックス・ブリタニカ段階とパックス・アメリカーナ段階に再構成することを提起されています。パックス・アメリカーナの変質のなかで, この間顕著となったグローバル資本主義の展開を多方面から実態的・理論的に解明する研究グループ (SGCIME) のグローバル資本主義シリーズ (9巻10冊) の完結に, 20年以上にわたり, 大きく貢献されました。先生が, 世界の多くの企業や工場を精力的に回られ, 実証的な裏付けを持ち, 歴史への評価を与えられたことは, これからの世界の行く末に対する示唆に富んだ考察を生み出されたものと存じます。

このように素晴らしい研究をされている河村先生ですが, ご教育についても国際経済学科の「アメリカ経済論」, 大学院での「地域経済論」を担当され, 多くの学生・院生さんをご指導されていたらっしゃいました。「アメリカ経済論」は, 国際経済学科の「地域研究科目群」を形成する重要科目で

す。大学の「グローバル化戦略」として、アメリカは研究においても交流においても外せない国です。さらに、留学先としてもアメリカは多くの学生にとっての憧れの国です。経済学部は、法政大学15学部のうち最も多くの留学生を受入れ、世界を意識した教育環境を提供しています。また、大学院でも、多くの留学生がおり、こうした環境において、先生の広い視野でのご研究が、学生・院生を惹きつけてきたことは言うまでもありません。先生にいらしていただき、ご活躍いただいたことは、本当に心強く感じられました。

上に挙げた文献の(1)は「アメリカ経済論」のメイン・テキストですが、非常に解りやすく、知的な刺激に満ちたご著書で、先生が素晴らしいご講義をされている様子がうかがわれます。先生が本学部に赴任されてからの17年間、アメリカ経済も世界経済も大きく動き、そのような中で、こうしたテキストを用いて学ぶことのできる学生さんを羨ましく思います。また、上に上げた文献(6)ですが、非常に楽しく拝読しました。弘兼憲史さんのキャラクター「島耕作」とともに経済情勢をさくっと理解できる良書ですし、パックス・アメリカナへの第二次世界大戦のインパクトについても解りやすく触れられており、先生の専門論文に読者を導くものとなっていると思われます。

ところで、ご研究・ご教育に精力的にご活躍されている河村先生が、実はさまざまなスポーツを趣味とされていることを今回初めて知りました。まず、スキー歴60年以上(最近はやめられたとのこと)、スポーツジム・筋トレ歴30年(こちらは現在も継続中とのこと)、そして、卓球もこの10数年続けられていらっしゃるとのこと。卓球に関しては、おそらく経済学部の卓球愛好者の方々からお誘いがあったのかと推察しています。地元のクラブにも所属されると同時に、コロナ前までは、経済学卓球部として体育館でも練習されていたとのこと。また、多摩教職員卓球大会第3部優勝もされたそうです。まさしく文武両道で、これらがいつまでも元気でお若い先生を形作られているのでしょう、と改めて腑に落ちた次第です。

河村先生が退職されてしまわれるのは寂しい限りですが、どうぞ、今後も研究成果のご教授と楽しい交流とをいただきましたら幸いです。また、ぜひ、先生のホームページのご更新をいただき、情報発信していただければ幸いです。個人的には、先生が訪れられた国々のフォト・ギャラリーを拝見することを楽しみにしております。17年間お疲れ様でした。そして、河村先生の益々のご活躍をお祈りしています。

